

昭和九年

(八)

合掌 南無阿弥陀仏

お便り有難う、拝見いたしました。都様には、この度、ご婚約出来ましたとのこと、誠に芽出度くお慶び申し上げます。どんなにかお慶びのこと、ご満足の御事と推察致します。

我等の同胞の中から、使命を帯びて、み仏の為に働く舞台に生きる人を得たことを喜びます。しっかりと鞭撻して尊く使命を発揮するように致しましょう。今日まで育てなされた愛子をお手からお放しなさるのは、お淋しいことでもありません。然し、又、真にお喜びの御事とも存じます。

よくお知らせ下さいました。期日が決定致しましたら又お知らせ下さい。ご主人におよろしく。

先ずは御喜びまで。

昭和九年七月一日

狂風

三浦廣子様

(九)

合掌 お手紙有難く拝見致しました。

お達者で御結構です。さてお便りの様子では、貴女は、ご婚約が出来たそうで、誠にお芽出度う存じます。結婚は人生の最大事です。然るに、平素求道に御熱心だった貴女は、お寺にゆくことになったとのこと、心から嬉しくお喜び申し上げます。お寺に嫁して、み仏にお給仕する者は、とても仏縁の深い人であります。都さんなら、必ず尊い使命が成就されると思います。これ一重に平素、本気でみ法に精進する貴女に真に生きる天地を恵まれたのです。今からその精神的準備が必要です。

然し、結婚の彼方には、決して楽しさや幻影を持つてはなりません。其処に新しい苦難が待っています。お寺といえ、他の世界と違った美しい所、楽しいきれいな所だと思つてはなりません。矢張り俗の世界です。人間の世界です。あまり期待しすぎると必ず失望します。唯み法を聞いて生きるのです。夫には忠貞を、親があれば孝を成就しなさい。何処の寺にも、なかなか坊守さんの生ききつた方がありません。ご両親も、何程かお喜びのことと存じます。立派に生きぬくことがご両親への孝道です。わけて母上のご恩に感謝しなさい。嫁しても純正光明団員として立派に生きぬきなさい。平素聞いたことを生かしきるのです。光明は、いつまでも読むこと。だは、いよいよ時日が決定したら、又、お知らせ下さい。

昭和九年七月一日

狂風

佛子 都様

料理屋の女将と寺の坊守との差は薄紙一枚の差である。

一は、自害彼の悪魔であり。

一は、自利利他の観音の化身である。

この二つは、ただ、そのものの心の中心に念仏があるかないかによって決定する。坊守たる者の本分は、ただ、合掌念仏によってのみ全うせられる。

昭和九年八月三十一日

住岡狂風

(十)

合掌 夏枝さん、先日はお便り有難う。

お達者で結構、島根の旅を終わって帰って来ました。盛会、又盛会。私たちの血盟、私たちの団結は、日に日に太ってゆく。何の力か。

夏枝さんが今日も毎日、念願してはたらきかけているように、各地の同胞も亦、矢張り、その決心ではたらいっている。

眼をつぶれ！ そして憶へ、各地には、貴女がまだ見ぬ同胞が、同一の生命に生き、同一の念願に燃えている。

島根県各支部連合会の講習会は、本部のそれよりも、もつともつと盛大であった。

白熱の血のいぶき、老婆も青年も、涙で誓った最後の夜、島根県下は、今や、反対の嵐の中にも、光明団化、否、仏化せんとしている。

たのむ。たのむ。精進せよ。求道せよ。

この度、聖講後における夏枝さんの献身的な拡大強化への精進奮闘を嬉しく尊く感謝します。

校内の仏教化、光明団化！

それには、先ず、実践の人となれ！

誰よりも、早く登校せよ！

誰よりも遅く退校する気になれ！

校内の欠陥を見出せ、其処に自己を没入せよ。

十、実行して、一、人に知らるをおそれよ。

善事を実践して、ほこる勿れ。

教壇上に自信を持って！ 等々の実践力のみが、人を得る唯一の方法だ。

十二月初に筒賀にゆく。

夏枝さん！合掌して毎日暮せ、朝夕の礼拝の時、必ず、お会いする。

昭和九年九月三日

狂風

小田夏枝様

(十一)

合掌 お便り合掌拝読す。

清い秋の朝・・・略・・・感謝の念仏を禁ずることが出来ない。この一兩年の悪戦苦闘、人間使命の成就のために、よくも戦いぬいてくれました。私とみ仏のみに知られることに満足して歩む、まさるの全てをじつと凝視して合掌しています。そうです。まさるは永久に私の子である。甲も去り、乙も逃げ、丙もそれ、丁も壊れ・・・人生は淋しい処である。

嗚呼、純正光明団員、幾人、幾十人かある。「唯二人なり」と言われた時、その一人は私ですと言いだすまでに精進せよ。兄につくして、兄よりお礼を求めな、妹につくして妹から感謝を受けようとするな。否、つくして報いられない時、流す涙を凝視せよ。如何なる時にも虚仮雑毒なるを知る時、純なる如来の太行がわかる。

尽未来際をつくして如来に生きよ！

如来中心の生活者のみ、我が真の同胞である。

法蔵の心を心とする時、何時も生きて嬉しき時である。

味気なき日に如来に帰れ。天下の血みどろの同胞を憶念せよ。

善智識を憶へ、白道は汝の上にある。

苦楽もとより一如、楽しんで可なり、苦しむも亦可なり。

特に今日、念仏の子、まさるを憶う。

昭和九年九月二十三日朝 正覚寺へ出発の前

狂風

愛子 松中まさる様